



第二次世界中西医结合大会

The 2nd World Integrative Medicine Congress

(2002年9月21-24日)

论文摘要集 Abstracts

北京(Beijing) · 2002

耳穴圧豆治療による減量についての研究

(財)ヘルス・サイエンス・センター中・西医結合研究所¹

東京金属事業健康保険組合²

遼寧中医大学日本校³

武蔵台病院内科⁴

崔邁¹、山田恒代² 陳堅鷹³ 若林孝雄⁴

目的

耳穴圧豆療法(王不留行(小球)と呼ばれる植物を耳穴に貼り付け、刺激による治療方法)を用い、45例の肥満症を対象にして治療を行い、その減量効果、また減量中のエネルギー摂取量及び各栄養素の摂取バランスの変動を検討した。

方法

45例を耳穴圧豆治療のみのA群と耳穴圧豆と食事療法併用のB群に分け、1ヶ月間の治療を行った。2群の間に年齢・BMIの差がなかった。

a. 耳穴圧豆治療法: 消毒した後、患者の耳穴の脳点、皮質下、内分泌、肝、小腸、心、肺、脾、腎の九穴に王不留行の粒を1個押圧しながら固定する。治療初期は週2回の治療とし、食欲が低下し、減量がスムーズに進むようになりしだい、週1回の治療とした。

b. 食事栄養指導

B群の患者に日本学会による提唱されているように一日エネルギー摂取量を1200kcalとして、食事指導を行った。

c. 研究の記録、検定法

体重と体脂肪率は受診時と治療を受けた1ヶ月後に、測定し、体重と身長により体格指数(BMI)を算出した(BMI: 22正常で ≥ 25 肥満だと診断される)。

d. 食事記録の栄養価の計算

患者から、治療前後、それぞれ一日分の献立を書いてもらい、一日平均栄養価を栄養計算プログラム(basic-4: 女子栄養大学出版部)により、計算した。

結果

1. BMI の変化

BMI は A 群受診時、 28.80 ± 1.47 で、1 ヶ月治療の後、 27.85 ± 1.44 となり、統計的に有意に減少することがみられ、減量値は 2.38 ± 0.7 kg であった。B 群では、治療前には、 $29.21 \pm 28.0 \pm 1.71$ で、1 ヶ月後には、 28.00 ± 1.66 となり、統計的にも有意差が認められ、1 ヶ月の減量値は 3.11 ± 0.85 Kg であった。

2. 体脂肪率の変化

A 群では治療前の $36.58 \pm 2.04\%$ より、治療後には、 $35.24 \pm 5.19\%$ になり、統計的に有意差が見られた。一方、B 群では治療前には $38.34 \pm 3.59\%$ で、1 ヶ月後には、 $36.46 \pm 3.44\%$ となり、有意な減少も見られた。

以上、2 群の間に有意差はなかった。

3. エネルギー摂取量の変化及び各栄養価の摂取状況

A 群では、総エネルギー摂取量は治療後には、治療前より $25.33 \pm 13.82\%$ 有意に減少した。減量中、脂肪対総エネルギーの比率は異常に上がった。また、治療後には、鉄分、特にカルシウムとナイアシンの摂取量は治療前より、下がって需要量より低いことが見られた。

B 群では、総エネルギー摂取量は治療後、治療前より、 $37.30 \pm 9.47\%$ 減少した。減量中、各栄養素摂取のバランスは良好であった。

統計分析によると、A 群の患者では、BMI と体脂肪率の減少値はそれらのエネルギー摂取量減少値の間には、正の有意な相関が見られた。

結論

耳穴圧豆療法の患者のエネルギー摂取量を減すことによる減量効果があり、治療中、科学的な食事指導の必要性がある。